

1 研究主題

コミュニケーション能力の素地を養う授業の創造

～J（じっくり）H（はっきり）K（くり返し）をふまえた外国語活動を通して～

2 主題設定の理由

本校では、これまで「国際社会に生きるコミュニケーション力の育成」を主題にして、英語活動に取り組んできた。コミュニケーション力を高めるためには、相手の言うことを注意深く聞いて相手の思いを理解しようとする力（受容力）や自分の思いを伝えようとする力（表現力）を養うことが大切である。

昨年度、「コミュニケーションの素地を養う」を研究主題として、「必然性」をキーワードに、児童が発話したくなる場面を設定すること、またアートのリンクの取り組みやアジア少年少女国際交流事業（アジチル）、ALTとの関わりを通して「異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める」活動に重点を置いて取り組んだ。

2015年度（平成27年度）の児童アンケートの結果は次のとおりである。

①英語活動は楽しい。	87.6%
②自分から進んで英語を話そうとしている。	80.8%
③身振り、手振りで工夫して伝えようとしている。	78.0%
④外国の生活や行事などに興味がある。	78.6%
⑤英語と日本語の違いや、よく似ているところが分かる。	85.0%

「外国語活動は楽しい」と感じている児童は約88%であり、進んで英語を話そうとする児童は8割を超えている。ALTとの活動を楽しみにして、積極的にコミュニケーションを図っている児童も多い。

しかし、「外国語と日本語での表現の違い」について、85%の児童が気づいてはいるものの、それを活動の中で用いることはまだ十分にできているとはいえない実態がある。また、「外国の生活や行事などに興味がある」の数値が低かったことから、学年ごとに、どのような場面で表現の違いや文化の違いを扱えるか考え、授業の中に意識的に入れていくことが必要である。

今年度も「コミュニケーションの素地を養う」を研究主題として授業改善を進めていく。「じっくり考える」「はっきり表現する」「くり返し挑戦する」場面を意識的に活動に取り組み、城北中学校区小中一貫教育の目指す子ども像を意識した授業展開を行う。また、英語と日本語での表現の違いや類似点に気付かせるとともに、それをを用いる活動を取り入れる。そして、引き続き、「異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める」活動を進めていく。

3 主題の基本的な考え方

コミュニケーション能力の素地とJ（じっくり）H（はっきり）K（くり返し）について
コミュニケーション能力の素地は、

- | |
|---------------------------------|
| ①言語や文化について体験的に理解を深めること |
| ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること |
| ③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること |

の3つの柱を、いずれも外国語を通じて体験的に行うことで養われる。

①言語や文化について体験的に理解を深めること（J…じっくり考える）

英語や外国の文化に触れることにより、自分と比べたり、生活体験とつなげたりして、違いや共通点を感じ取っていくことが大切である。自分たちとは異なる価値観をもった人々がたくさんいるということや、言語や文化が違って、共通点があることなどにも気づいていく体験が、また新たな場面で積極的にコミュニケーションをしようとする原動力につながっていく。

②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること（K…くり返し挑戦する）

知っている友達や気の合う友達とだけ、仲良く活動できるのは、積極的にコミュニケーションができているとはいえない。同じグループの友だち、同じクラスの友達や ALT と少しずつ視野を広げ、自分とは異なる価値観を否定することなく関わられるようになっていくことが大切である。

③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること（H…はっきり表現する）

慣れ親しむとは、抵抗感をもつことなく聴いたり、口に出したりできることである。そのためにはまず、聞き慣れることが大事である。その場面に応じた英語表現を、意味を推測できるように絵や動作、または文字を加えながら、繰り返し見たり聴いたりさせ、「自分にも分かる」「使ってみよう」という気持ちをもてるようにしていく。

4 めざす子ども像

本校では、次のようなめざす子どもの姿を設定している。

- じっくり考える子
- はっきり表現する子
- くり返し挑戦する子
- おもいやりのある子

これらをもとに、外国語活動における具体的なめざす子ども像を次のように考えた。

外国語活動でめざす子ども像

- (1) 積極的に外国語を聞いたり、話したりする子
- (2) 友達との関わりを楽しみ、自分の思いをはっきり相手に伝えようとする子
- (3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づく子

5 研究の仮説

聞く・話す・読むなどの体験的な学習活動を中心にして、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いに気づかせ、積極的に発話したくなる場面を設定し、親しみやすい英語を用いた表現活動に取り組めば、コミュニケーション能力の素地が養われるであろう。

6 研究内容

- (1) 発話したくなる場面設定（K・・・くり返し挑戦する）
- (2) 設定した場面に基づく、親しみやすい外国語を用いた表現活動（H・・・はっきり表現する）
- (3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動（J・・・じっくり考える）

7 研究の手だて

(1) 発話したくなる場面設定

【授業時】

- ①発音、リズムを楽しむ歌やチャンツの工夫（スピード、順番の変化など）
- ②ゲームやごっこ遊び、ショーアンドテルなどの活動
- ③デジタル教材や、インフォメーションギャップを利用した教材の工夫（英語ノートの活用、教材開発）
- ④ALTを活用した児童の興味関心を引き出す活動の工夫

【授業外】

- ①楽しく英語表現にふれる機会の充実（明王台小学校英語検定、同じ単語やパターンの繰り返して構成された絵本の読み聞かせ等）

(2) 親しみやすい外国語を用いた表現活動

【授業時・朝のショートタイム】

- ①活動方法（インタビュー・ショーアンドテル・クイズなど）
- ②表現方法（言語・ジェスチャー・絵・写真など）

(3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動

【授業時】

- ①ALT とのトーキングタイムにおける言語や文化の体験的理解
- ②日本と外国の生活などの違いに気づかせる教材（写真など適宜）

【授業外】

- ①外国の生活などを知る活動（朝のショートタイムの充実）
- ②生活様式や慣例の紹介（本の読み聞かせなど）

8 検証の指標

(1) 発話したくなる場面設定

- ①進んで発話しようとしている。
- ②活動を楽しんでいる。

(2) 親しみやすい外国語を用いた表現活動

- ①身振り・手振りも交えながら、親しみやすい英語を用いて表現している。

(3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動

- ①外国の生活、習慣、行事に興味を持ち、積極的に発話している。
- ②英語と日本語での表現のちがいに気づき、活動の中で用いている。

9 検証計画

(1) 発話したくなる場面設定

（教師による行動観察、ふりかえりカード、アンケート）

(2) 親しみやすい外国語を用いた表現活動

（教師による行動観察、ふりかえりカード、アンケート）

(3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動

（教師による行動観察、ふりかえりカード、アンケート）

10 授業展開

既習の英語を使ってできるだけ多くの言葉をインプットさせるような授業展開をする。授業形態はHRT, HRTとALT, HRTとVTの3通りであり、いずれも基本は担任主導で行うが、活動によってより効果的な形態を工夫する。また、ALTだけでなく、HRTも指示などをする際にクラスルーム・イングリッシュを積極的に用いることで、児童が英語に触れる機会の充実を図る。

〈時間数〉	1・2年生	15時間	教科等外の時間
	3・4年生	15時間	教科等外の時間
	5・6年生	35時間	外国語活動の時間

〈授業展開例〉

学習の流れ	主な活動	学習内容
であう	Greetings あいさつ	Good morning everyone. ※高学年は城北中校区統一のあいさつ
	Song 歌	♪Hello.
ふれあう	学習のめあて	本時のめあてを知る。
	Talking time	ALT の話を聞く
	Chant 発話練習	前時の復習 新しいことばのインプット
	Activity 活動	めあてにそった活動 ゲーム、インタビューetc
みとめあう	振り返り	めあてにそって振り返りをする。
	Greetings あいさつ	♪Good -bye. ♪See you. ※高学年は城北中校区統一のあいさつ

※城北中学校区統一のあいさつ

【授業始め】

係 : Stand up, please.
Let's start today's English lesson.
全員 : Yes, let's. Let's work hard.
係 : Sit down, please.

【授業終わり】

係 : Stand up, please.
That's all for today's lesson.
全員 : Good work, everyone.
先生 : See you next lesson.
全員 : See you. Thank you very much.